

I 令和5年度事業報告

えひめ地域活力創造センター（tiliki）は、令和4年4月に組織を再編し、愛媛県の人口減少対策の方向性を踏まえ、活動の軸足を移住促進及び交流人口の拡大に置くとともに、①移住交流促進、②地域活性化促進、③人材育成促進を事業の3本柱に位置付けた。

また、それまでのシンクタンク型組織から、「人口減少社会における地域の活力創造」を目的とした価値創造志向の実践型組織へとシフトを図り、中期的な活動方針を策定して、既存事業のブラッシュアップとともに、地域づくり団体や経済団体と連携した事業を積極的に実施するなど、前向きで効果的な事業運営に努めている。

《今後5年間を見据えたセンター活動方針》R4.4 策定

- 県の人口減少対策の方針を踏まえ、移住促進・交流人口増に軸足を置いた事業遂行により「重点戦略」の目標に寄与
- 価値創造思考の実践型組織として前向きで機動的・効果的な姿勢を徹底
- マネジメント力強化と業務の効率化を図り、限られた財源の範囲で貴重な人的資源を有効活用し、新たな施策を積極展開
- 市町、団体、大学、民間等との連携により、人口減少問題に立ち向かう地域を、様々な機関が連動して多角的に支援するハブ的機能を目指す

令和5年度は、地域の特性に応じた自主的、主体的な取組みを後押しする現場伴走型の組織として、実践的な施策の推進に取り組んだ。

1 移住交流促進事業

センター内に設置の「愛媛ふるさと暮らし応援センター」の機動的な運営を図るとともに、センターに駐在する愛媛県地域政策課移住推進グループと一体となって、更なる移住促進や若年層の転出抑制による定住人口の確保、それを補う交流人口や関係人口の拡大を図った。

(1)愛媛ふるさと暮らし応援センター運営事業

（愛媛県から受託）

センター内に移住相談窓口「愛媛ふるさと暮らし応援センター」を設置・運営し、移住促進に係る受入側と希望側の多様なニーズにきめ細かくかつ柔軟・的確に対応した。

- ・市町の移住者誘致の取組みに対する個別指導・助言
- ・移住希望者に対する移住先の紹介及び市町への取次ぎ
- ・移住動向の調査分析
- ・移住パンフレット「えひめ暮らし」の改訂
- ・県や市町における移住関連イベントの開催支援
- ・えひめ移住応援隊・えひめ愛着倶楽部の運営

名称	内容	登録数
えひめ移住応援隊	本県の移住促進の取組みに賛同し、愛着倶楽部会員に各種料金の割引やサービス、移住検討や定住に役立つ地域の情報を提供	9事業者
えひめ愛着倶楽部	県が指定する移住イベントに参加するなど、愛媛県に興味を持ち、将来的に愛媛県への移住を考えている方	124名

(2)愛媛ふるさと暮らし応援センター情報発信等事業

(えひめ移住交流促進協議会から受託)

移住相談窓口「愛媛ふるさと暮らし応援センター」において情報発信の強化に取り組んだ。

①「えひめ移住ネット」及び「えひめ空き家情報バンク」の運営及び内容の充実

開設日	掲載情報	閲覧者等
H19.9.10	<ul style="list-style-type: none"> ・住居・就労・生活関連情報(市町HPへのリンク等) ・移住経験者の体験談 ・移住関連イベント情報 ・住まい(空き家)情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・えひめ移住ネット 閲覧者数：262,162人 ・えひめ空き家情報バンク 登録物件数：166件 成約物件数：26件 (うち県外移住者成約数：21件)

②全国移住フェアへの出展、広域連携による移住・交流イベントの運営補助

	日付	名称	場所	出展団体	来場者数	相談件数
1	R5.7.22(土)	おいでや！いなか暮らしフェア	大阪	県 5市町	831組 1,462名	28件
2	R5.9.17(日)	ふるさと回帰フェア	東京	県 9市町	21,845名	107件
3	R5.10.1(日)	中国四国もうひとつのふるさと探し	大阪	県 3市町	168組 250名	48件
4	R5.11.12(日)	四国暮らしフェア	東京	県 7市町	151組 196名	51件
5	R6.1.13(土) 1.14(日)	JOIN 移住・交流&地域おこしフェア	東京	県 7市町	3,337名	96件
計						330件

③PR ツールの作成

・「おかえり愛媛通信」 2,000部

④えひめ地域移住相談員の育成強化

・地域移住相談員交流研修会の開催

日付	場所	内容	参加
R5.7.14(金)	愛媛県生活文化センター(松山市)	1 愛媛県の移住施策について (1)愛媛県の移住施策について (県地域政策課) (2)令和5年度えひめ地域活力創造センター運営事業について (tiliki) 2 講演「移住相談についてのノウハウとポイント」 講師：松原 香織 (えひめ移住コンシェルジュ) 3 実践演習(グループワーク)	35名

(3)えひめの移住力総合強化事業

(愛媛県から受託)

全国的に加速化している都市部から地方への移住・交流の流れを捉え、地域の担い手となる移住希望者を確保するため、市町及び関連団体等と連携し、メインターゲットである若者世代(20代・30代)とのマッチングを図る移住フェアを東京・大阪で開催するとともに、オンライン移住フェアを開催した。

①対面式移住フェアの開催

	日付	場所	出展団体	来場者数	相談件数
1	R5.7.23(日)	東京	26(県・20市町・5団体)	136組 198名	328件
2	R5.8.27(日)	大阪	29(県・20市町・8団体)	120組 175名	320件
3	R5.12.17(日)	東京	28(県・20市町・7団体)	158組 217名	396件
4	R6.1.27(土)	大阪	31(県・20市町・10団体)	91組 128名	236件
	計			505組 718名	1,280件

②オンライン移住フェアの開催

	日付	名称	参加者数
1	R5.5.23(火)	移住検討の“ファーストステップ”セミナー (第1回)	37名
2	R5.6.20(火)	移住検討の“ファーストステップ”セミナー (第2回)	28名
3	R5.10.15(日)	移住検討のセカンドステップセミナー 愛媛のお仕事事情 仕事探しのコツ教えます!	22名
4	R5.11.21(土)	移住検討のセカンドステップセミナー 愛媛での住まい探し ～先輩移住者の空き家の探し方・改修編～	25名
5	R6.2.20(火)	今から移住を考えるあなたへ ～【東京・大阪】愛媛のリアルな話どこで聞けるの?～	19名
6	R6.3.12(火)	愛媛県の魅力…お伝えします!! ～愛媛県にしか住んだことのない生粋の愛媛県民が語る“愛媛の魅力”～	19名
	計		150名

(4)南予移住拡大事業

(愛媛県から受託)

県内の中でも人口減少率や高齢化率が突出して高い南予地域の担い手となる移住者誘致の拡大を図るため、南予移住マネージャーを配置し、南予への移住促進に向けた受入体制と人的ネットワークの強化、各市町や地域への移住促進に向けた仕組みの構築

を図った。

〈南予移住マネージャー〉 山口 聡子

〈設置場所〉 南予テレワーク移住支援拠点 COWORKING-HUB nanyo sign
(喜多郡内子町内子 2023 内子まちの駅「Nanze」 2階)

①南予移住者交流会の開催

南予地域への移住者や地域住民などを対象とした交流会を開催し、移住者ネットワークの形成を通じた移住希望者の受け皿づくり及び多様な主体が参画した地域レベルでの人が人を呼び込む体制づくりの促進を図った。

	日付	場所	内容	参加者数
1	R5.6.10(土)	南予サイン (内子町)	1 なりわい見本市 2 物々交換&猫の手交換会 3 移住者よもやま座談会	30名
2	R6.3.10(日)	卯之町駅前 複合施設 ゆるりあん (西予市)	1 ワークショップ ①フォトスタンド・メッセージ カード作り体験 ②ダーニング体験 2 天然酵母パンなどの販売	109名

②南予移住促進連絡会議の開催

南予9市町における好事例の横展開や、複数市町連携による受入体制づくりなどに向けた意見交換の場として開催した。

	日付	場所	内容
1	R5.4.26(水)	南予サイン (内子町)	・令和4年度移住実績について ・令和5年度南予移住拡大事業について ・令和5年度南予移住マネージャーの活動について ・圏域連携に向けた意見交換
2	R5.5.24(水)	宇和米博物 館講堂 (西予市)	・定住自立圏と広域連携の背景及びその可能性について ・圏域連携に向けた意見交換
3	R5.12.6(水)	オンライン	・令和5年度上半期の移住実績について ・移住相談後のアフターフォローについて ・仕事情報の充実(「あのこの愛媛」の活用)について

(5)南予子育て移住促進協議会事業

(南予子育て移住促進協議会から受託)

人口減少率が県内平均を大きく上回るとともに、県内で唯一、人口・世帯数ともに減少している南予地域への移住促進を図るため、南予5市町(宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町)を対象に、子育て世帯及び将来の子育て世帯(若年者夫婦)をターゲットにした移住施策を展開した。

①大都市圏での移住フェアの開催

「ちいさなえひめ移住交流会

～教えて！子育て家族の“のびのび”えひめ南予暮らし～

	日程	場所	内容	来場組数
1	R5.9.10(日)	FUN SPACE DINER (大阪府)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5市町の概要説明 ・ 先輩移住者の紹介・交流 ・ 個別移住相談 ・ 5市町の食材を使用したカ 	21組 (うち、子育て世帯 12組)
2	R6.2.4(日)	LIFULL Table (東京都)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5市町の概要説明 ・ 先輩移住者の紹介・交流 ・ 個別移住相談 ・ 5市町の食材を使用した食 	24組 (うち、子育て世帯 4組)
	計			45組 (うち、子育て世帯 16組)

②子育て移住オンラインセミナーの開催

「教えて！子育て家族の“のびのび”えひめ暮らしセミナー」

	日付	参加者数
1	R5.7.29(土)	11名(うち、子育て世帯 8組)
2	R5.8.19(土)	12名(うち、子育て世帯 6組)
3	R5.12.19(火)	8名(うち、子育て世帯 3組)
4	R6.1.16(火)	3名(うち、子育て世帯 1組)
	計	34名(うち、子育て世帯 18組)

③全国移住フェアなどへの出展

	日付	名称	場所	来場者数	相談件数
1	R5.7.22(土)	おいでや！いなか暮らしフェア	大阪	831組 1,462名	1件
2	R5.9.17(日)	ふるさと回帰フェア	東京	21,845名	11件
3	R5.10.1(日)	中国四国もうひとつのふるさと探しフェア	大阪	168組 250名	9件
4	R5.11.12(日)	四国暮らしフェア	東京	151組 196名	2件
	計				23件

(6)移住と雇用のマッチング促進支援事業

南予地域を対象に、人材確保を図る事業者の移住者心理に対する理解促進を図ることを目的に、県及び地元市町の参加のもと、経済団体や事業者等との意見交換会を開催した。

〈共催〉愛媛県商工会議所連合会、愛媛県商工会連合会

〈協力〉(一社)えひめ暮らしネットワーク

	日付	場所	内容	参加事業者数
1	R5.6.21(水)	宇和島市役所 (宇和島市)	【宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町】 《第一部》 1 tiliki の活動について 2 愛媛県の移住施策及び移住者の動向について 3 「あのこの愛媛」の活用について 《第二部》 1 移住希望者の視点から見た働きやすさとは 2 参加者間での意見交換	19社 (26名)
2	R5.10.20(金)	大洲商工会館 (大洲市)	【大洲市、西予市、内子町】 《第一部》 1 tiliki の活動について 2 愛媛県の移住施策及び移住者の動向について 3 「あのこの愛媛」の活用について 《第二部》 1 移住希望者の視点から見た働きやすさとは	24社 (28名)

2 地域活性化促進事業

センター職員がアドバイザーとして現場に飛び込み、市町や地域づくりの担い手の方々と一緒に活動し、地域の資源や特性を生かして交流と賑わいの創出を図った。

(1)えひめ地域活力創造フォーラム開催事業

地域づくりに関するタイムリーなテーマでフォーラムを開催し、住民の自主的・主体的な地域活性化意識の醸成を図った。

『山奥ビジネス 一流の田舎を創造する』著者である藻谷ゆかり氏を講師として招へいし、条件不利地域や過疎地域での地域資源を活用した地域活性化についての講演や事例紹介を通じて、参加者が自身の地域資源を再発見し、価値を見直す機会の創出に取り組んだ。

また、実際に県内で地域資源を活用した地域活性化を行っている事業者をパネリストとして招聘し、好事例の情報発信や、参加者との意見交換を行うことで、地域づくりに取り組む参加者相互のネットワーク作りや情報交換の場として提供した。

○第2回えひめ地域活力創造フォーラム

〈テーマ〉「一流の田舎って何だ? ～過疎地域の明るい未来を考える～」

〈日程〉令和5年12月9日(土)

〈会場〉愛媛大学共通講義棟B CRI-1 教室

〈内容〉基調講演

「山奥ビジネスの取材から見えた一流の田舎とは」

講師：藻谷 ゆかり(巴創造塾主宰)

パネルディスカッション

「一流の田舎って何だ？～過疎地域の明るい未来を考える～」

コーディネーター：笠松 浩樹(愛媛大学社会共創学部准教授)

コメンテーター：藻谷 ゆかり

パネリスト：辻本 京子(企業組合遊子川ザ・リコピンズ代表理事)

木村 俊介(まるごと緑会長)

森 裕之(ゲストハウスカイトク舎代表)

〈共催〉愛媛大学社会連携推進機構、愛媛大学社会共創学部、

えひめ地域づくり研究会議

〈参加者〉39名

(2)集落活性化意識醸成支援フォローアップ事業

愛媛県からの受託事業として令和2年度から4年度に「集落活性化意識醸成支援事業」を実施した地区の地域づくり活動の活性化につなげるため、愛媛大学社会共創学部と協働し、各地区における地域づくり活動のフォローアップを行った。

〈実施箇所〉①四国中央市関川地区、②久万高原町柳井川地区、③大洲市長浜地区

〈参加者〉各地区地域づくり団体等

愛媛大学社会共創学部生

〈主な内容〉各地区における地域づくり活動の把握・助言

地域資源を活用した商品開発やイベント開催 など

(3)集落实態調査事業

(愛媛県から受託)

県内の小規模・高齢化集落の現状や課題、地域活動組織の取組みを把握するため、5年ごとの県内集落の包括的な調査を愛媛大学社会共創学部の協力を得て実施し、人口減少下における本県の持続可能な地域運営の仕組みや行政支援のあり方を検討するための基礎資料として県に報告した(県は報告書を取りまとめ、令和6年1月11日に県HP等で公表)。

〈調査対象等〉

①悉皆調査(アンケート等)

対象	市町	単一集落	地域活動組織
内容	人口、世帯数、生活機能、集落対策の現状等	生活環境、活動状況、課題、ニーズ、魅力等	設立状況、活動状況、課題、10年後の状況等
回答率	※19市町(松前町対象外)	2,372/2,886(82%)	206/234(88%)

②標本調査(地域活動組織への現地ヒアリング)

対象	四国中央市(関川地区)、久万高原町(柳井川、中津、面河地区) 西予市(狩江、横林、遊子川地区)、愛南町(緑地区)
内容	組織の設立経緯、活動状況、地域の課題

〈調査結果〉

① 悉皆調査(アンケート等)

2013年、2018年調査からの増減傾向は次のとおり。

- ・世帯数に増減のあった集落(※データの連続性がある集落を対象)

調査年	2013 → 2018		2018 → 2023	
増加	752	26.7%	715	25.4%
減少なし	334	11.8%	367	13.0%
減少	1,732	61.5%	1,736	61.6%
合計	2,818	100.0%	2,818	100.0%

- ・人口に増減のあった集落(※データの連続性がある集落を対象)

調査年	2013→2018		2018→2023	
増加	330	11.7%	352	12.5%
減少なし	74	2.6%	113	4.0%
減少	2,414	85.7%	2,353	83.5%
合計	2,818	100.0%	2,818	100.0%

- ・市町データの分析結果
世帯数の減少より人口の減少が著しい。また4集落が無住化。
- ・集落及び地域活動組織アンケート調査結果
約1割が10年後の消滅可能性を示唆

② 標本調査(地域活動組織への現地ヒアリング)

各組織の特徴的な活動について、ポイントは次のとおり

四国中央市 (関川地区)	少子化の危機意識をバネに住民主体で住み続けられる地域づくり活動を支援
久万高原町 (柳井川、中津、面河地区)	担い手不足を解決するため、地域内団体と協力して多様な地域運営を展開
西予市 (狩江、横林、遊子川地区)	地域づくりを支える人材を配置して地域活動の多様化を行政と共同で実施
愛南町 (緑地区)	地場産業体験など交流・関係人口の創出で稼ぐ地域づくりを実践

(4) 地域づくり活動アシスト事業

地域づくりに関するワークショップやイベントの開催、広報資料の作成などの活動を行う団体等に対して、活動費の一部を助成し、地域活動の活性化と活動事例を発表する機会を通じた団体間のネットワークづくりの促進を図った。

(助成上限額：100,000円)

団体・事業名	市町	目的・主な内容
双海灘町横丁はしご酒実行委員会 「双海灘町横丁はしご酒」	伊予市	(目的) ・地域コミュニティの活性化 ・商店街の活性化 ・交流・関係人口づくり (主な内容) 既存店舗や空きスペースで飲食店を出店

ステラ新宮 「ステラ新宮夏の自然体験イベント開催と団体普及活動」	四国中央市	(目的) ・新宮地域の魅力発信 ・団体の情報発信、知名度向上 ・若者の地域活動への参画推進 (主な内容) 廃校を活用した自然体験イベントの開催
中島 ART BOMB 実行委員会 「中島 ART BOMB!!! 巨大壁画制作」	松山市	(目的) ・アートを活用した観光客の呼び込み ・UI ターン移住者の増加 (主な内容) ・島の学生と巨大壁画を制作し、大浦港に設置 ・SNS による中島の情報発信
双海町ジュニアリーダー会 「海岸線憩いのフォトスポット事業」	伊予市	(目的) ・交流人口の増加 ・SNS を通じた双海町の魅力発信 ・若者の地域活動への関心を高める (主な内容) ・ベンチの製作 ・フォトスポットの創出
草ほぎボランティア「いきがい」 「草ほぎボランティア」	宇和島市	(目的) 閉校した施設の維持及び美化 (主な内容) ・草ほぎ ・花植えのボランティア活動
イヨミモザまつり実行委員会 「3月8日ミモザの日は伊予市で過ごそう」	伊予市	(目的) ・イヨミモザまつり開催に伴うオーバーツーリズム対策 ・広域かつ滞在型のイベントによる中山地域への観光客増加 (主な内容) ミモザの追加植樹

(5)元気な集落づくり応援団「関係人口」創出事業

(愛媛県から受託)

地域活動の担い手が不足している集落を応援するため、祭りや清掃等の手伝いを希望する集落とボランティア活動で応援したい企業・大学等をマッチングすることで、集落と都市との交流を促進し、関係人口の創出に取り組んだ。

	日付	場所	内容	応援者数
1	R5.6.3(土)	松山市 久谷地区	「第2回松山くぼの町ホテル祭り」開催支援	6名
2	R5.7.9(日)	久万高原町 中津地区	旧中津小学校の清掃	7名

3	R5.10.15(日)	伊予市 大久保本谷集落	中間道の排水溝等の清掃	6名
4	R5.11.12(日)	伊予市 佐礼谷地区	「されだにきてみん祭」開催 支援	3名
5	R6.2.18(日)	伊予市 大久保本谷集落	・中間道の排水溝等の清掃 ・桜の植樹	3名
6	R6.3.31(日)	久万高原町 中津地区	「中津さくらまつり」の開催 支援	10名

(6)地域づくり情報誌発行事業

((公財)愛媛県市町振興協会から受託)

①ネットワーク情報誌「舞たうん」の編集・発行

地域づくりに関する事例や最新情報、センターの業務などを紹介する情報誌「舞たうん」を発行し、会員や県内外の地域づくり関係者に配布した。

(各 2,500 部)

番号	特集テーマ	発行
Vol.152	空き家対策の新たな可能性を探る ～さまざまな取組みから生まれる地域の賑わい～	令和5年7月
Vol.153	自然環境を活用した関係人口の増を目指して ～アフターコロナにおける地域の活性化～	令和5年11月
Vol.154	地域を守る公共交通 ～持続可能な地域づくり～	令和6年3月

②えひめイベント BOX ウェブサイトの運営

地域におけるイベント情報等をウェブサイト「えひめイベント BOX」(令和5年3月開設)に掲載し、最新情報の常時提供や検索性などウェブサイトならではの機能を活用しながら広く発信した。

(7)地域づくり団体との協働事業

地域づくり活動を積極的に展開する団体等との連携を図り、それぞれの長所を生かした協働による課題解決の取組みを促進した。

① えひめ地域づくり研究会議との協働事業

○「人口減少社会を生きる！フォーラム 2023」

〈テーマ〉「健やかな人口減少社会を生きる！」

〈日程〉 令和5年12月9日(土)

〈会場〉 愛媛大学共通講義棟B CRI-1 教室及びリモート配信

〈内容〉 基調スピーチ

「健やかで幸せな『人口減少社会』を生きる」

講師：笠松 浩樹(愛媛大学社会共創学部准教授)

リレー・トーク

田中 菜(NPO 法人ワークライフラボ理事)

今里 拓哉(NPO 法人きないやせきぜん副理事長)

重見 文典(「だんだんおもご」集落支援員)

桑名 虹之介(地域おこし協力隊)

(第2部)グループディスカッション
「人口減少社会を幸せに生きる術」

〈共催〉 (公財)えひめ地域活力創造センター
愛媛大学社会連携推進機構
愛媛大学社会共創学部

〈参加者〉29名

② 「四国へんろ道文化」世界遺産化の会との協働事業

○ 「「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 2024 年次フォーラム」

〈日程〉 令和6年3月24日(日)

〈会場〉 久万高原町産業文化会館研修室

〈内容〉 ・基調講演

「へんろ小屋プロジェクト 59号に至る！」

講師：歌 一洋(四国八十八ヶ所へんろ小屋プロジェクト代表)

「四国遍路道調査から見えてくるもの」

講師：岡崎 直司(えひめ地域づくり研究会議運営委員)

「四国遍路関連資産の文化財指定について」

講師：西村 暢人(愛媛県文化財保護課担当係長)

・パネルディスカッション

「四国へんろ道」の世界遺産に値する魅力について

〈協賛〉 (公財)えひめ地域活力創造センター

えひめ地域づくり研究会議

③ (一社)えひめ暮らしネットワークとの協働事業

○ 「えひめ暮らしネットワークランチ会 in tiliki」

〈日程〉 令和5年10月26日(木)、令和6年1月19日(金)、2月16日(金)

〈会場〉 tiliki 内フリースペース

〈目的〉 地域づくりに関心のある方が集まり、ランチを食しながら互いの活動や近況を報告しながら交流を深め、それぞれの事業や活動の促進に役立てる。

〈参加者〉 えひめ暮らしネットワーク会員、tiliki 職員、地域おこし協力隊(OB・OG含む)ほか

3 人材育成促進事業

「地域づくりは人づくり」を基本として、地域の特性に即した課題の解決を図るリーダーの育成や将来の地域を担う人材の掘り起こしなどの人づくりを進めていくとともに、多様な地域づくり人材との人脈の構築を図った。

(1) 「地域づくり力」講座開催事業

(愛媛県から受託)

地域づくり活動の中心となる人材の育成やスキル向上を図るため、県内の先進実例や集落づくりの手法を学び、関係者のネットワーク形成に資する実践研修を実施した。

〈テーマ〉 地域づくりのためのファシリテーション講座

〈日程〉 全6回(令和5年7月～10月)

〈会場〉 松山観光港ターミナル研修室、愛媛 CATV オープンスクエア

〈フィールドワーク〉 西予市横林地区・遊子川地区

〈講師〉 鍋島 悠弥((一社)えひめ暮らしネットワーク副代表)

稲垣 文彦(NPO 法人ふるさと回帰支援センター副事務局長)

田口 太郎(徳島大学社会産業理工学研究部教授)
〈参加者〉延べ 55 名

(2)大学生と県内企業によるアイデア会議開催事業 (愛媛県から受託)

大学生の地元定着に向けて、大学生の地域や地元企業への理解・関心を高めるとともに、地域資源や地域人材の魅力を認識させるため、大学生が地元企業と協働して商品企画等を行うワークショップを開催した。

【松山会場】

〈日程〉 令和5年10月21日(土)、28日(土)

〈場所〉 サイボウズ松山オフィス、えひめ共済会館

〈参加企業及びテーマ〉

- ・サイボウズ(株)松山オフィス
「愛媛県をノーコードツール先進県にするにはどうすればよいか」
- ・(株)テレビ愛媛
「新たな地域メディア～ローカル×リアルタイムな情報アプリを有効に活用するには？」
- ・朝日共販(株)
「若者から選ばれる地域企業に必要なものとは？」

〈参加者〉県内の大学生 13 名

【新居浜会場】

〈日程〉 令和5年12月2日(土)

〈場所〉 新居浜工業高等専門学校

〈参加企業及びテーマ〉

- ・フジボウ愛媛(株)
「ものづくり人口を増やすためには？～愛媛県西条市のフジボウ愛媛(株)を事例に考える～」
- ・ルネサスエレクトロニクス(株)
「半導体を身近に感じ、当社および半導体への理解度・認知度を上げるためには」
- ・ユースエンジニアリング(株)
「無線センシングの活用法～多彩なセンサーと柔軟に接続可能な無線モジュールの可能性」
- ・(株)ヒカリ
「FA (Factory Automation)を広く知ってもらうためには何をすればよいか」
- ・サイボウズ(株)松山オフィス
「学校生活の中でノーコードツールをどのように活用できるか」

〈参加者〉新居浜工業高等専門学校の学生 29 名

(3)えひめ地域活力創出アワード・高校生支援事業

次世代の地域づくりの担い手となる若い世代の活動を支援し、地域活力の創造と持続可能な地域社会構築を目指して、高校生が主体となった地域づくりに関する実践活動を表彰する「えひめ地域づくりアワード・ユース 2023」を開催した。

〈募集内容〉高校生が主体となった地域活性化、地域づくりのための実践活動

(学校等での課題研究、部活動、サークル活動、自主研究等の活動など)

- 〈審査〉 第一次審査：書面
最終審査：第一次審査結果の上位グループ等における作品の発表
- 〈表彰〉 最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、特別賞、奨励賞
- 〈最終審査及び表彰式〉

日時：令和5年12月16日(土)、場所：愛媛県男女共同参画センター

表彰	学校名	グループ等名	タイトル
最優秀賞	伊予農業高校	伊予農業高校生活科学科食物班	#伊予農福連携プロジェクト～伊予農×ノウフク×企業共同で共生社会の実現を目指す～
優秀賞	西条農業高校	石鎚黒茶 SEL プロジェクト	石鎚黒茶 SEL プロジェクトの取り組み
優秀賞	野村高校	N-ジオチャレ	のちカツで作る野村の高校生のカタチ
審査員特別賞	小松高校	チームカメラリア	小松高校発「えひめ教育資料館」の開館に向けて～地域文化の魅力
審査員特別賞	大洲農業高校	生産科学科果樹班	地域資源「バショウ」から有機肥料を～サステイナブルな農業で2050年を目指す～

(順不同)

(4)(一財)地域活性化センターとの連携事業

令和4年4月に地域活性化センター(東京都)と締結した「地域の活力創造に向けた事業実施及び人材育成に関する連携協定」に基づき、相互の職員交流やインターン派遣、共同事業を実施し、職員の人材育成や地域づくりの支援などの新たな価値の創造を図った。

①地域活性化センター主催セミナー等の受講

賛助会員として、地方創生セミナー(オンライン開催)に参加するなど、全国の先進事例や地方創生に向けて様々な分野で先進的な取り組みを行う複数の講師から、新たな知と方法を生み出すためのヒントを学んだ。

〈地方創生セミナー〉

開催日	テーマ	主任講師
R5.7.26(水)	郵便局と地方創生	日本郵便(株)地方創生推進部
R5.7.28(金)	地域金融機関と連携した地域創生	川本 恭治(城南信用金庫理事長)

〈地方創生フォーラム〉

開催日	テーマ	内容
R6.2.22(木)	A I × 地方創生	基調講演① 村井 宗明 (東武トップツアーズ(株)CDO) 基調講演② 鈴木 祥太

②相互インターンシップの実施

両センターの職員が一定期間、インターンとして互いの業務や事業に携わり、職員の資質向上や組織を超えた人的ネットワークの構築を図った。

〈当センターから地域活性化センターへのインターン〉

日程	参加者	主な内容
R5.7.24～ 7.28 (5日間)	2名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方創生セミナーの運営 「郵便局と地方創生」 「地域金融機関と連携した地域創生」 ・ 人材養成塾(楽天(株)オフィス見学) ・ アンテナショップ情報交換会への参加 ・ 日本橋フィールドワーク ・ 活性化センターフェローによるゼミナールの受講

〈地域活性化センターから当センターへのインターン〉

日程	参加者	主な内容
R5.10.24～ 10.28 (5日間)	4名	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク「三津のまちづくり」 ・ 道の駅Gメン(@伊予市) ・ 地域づくりおもしろキーパーソン巡り(@伊予市) ・ 地域おこし協力隊及び伊予市担当職員との意見交換 ・ 「えひめ暮らしネットワークランチ会 in tiliki」参加 ・ 「おかえり愛媛通信」取材・記事作成 ・ 「大学生と県内企業によるアイデア会議」運営

③ワーケーション研修の共同実施

全国の自治体職員等を対象に、ワーケーションを切り口とした地域課題の解決の手法を自ら実践的に学ぶ研修を、伊予市を加えた三者連携により実施した。

○「ワーケーション研修～自ら体験して学ぶマネジメントと価値創造～」

〈日程〉 事前説明会 令和5年6月27日(火) (オンライン開催)

現地研修 令和5年7月10日(月)～14日(金)

事後発表会 令和5年8月22日(火) (オンライン開催)

〈開催地〉伊予市及び内子町

〈内容〉 講義「変わりゆく世界の中での「ワーケーション」の必然
～地域、人、企業にとってのそれぞれの「価値」とは?～」

講師：箕浦 龍一((一社)日本ワーケーション協会 特別顧問)

指定プログラム

- ・ 講義「官民でつくるワーケーション」
- ・ 講義「わがまちモデルのワーケーションとは」
- ・ 講義「伊予市の取組みについて参加者と一緒に考える実践型の研修」

選択プログラム又はリモートワーク

- ・ 講義「地域活性化を担うキーパーソンとの交流」
- ・ 講義「地域づくりに対する思いやこれからのまちづくりのヒントを学ぶ研修」
- ・ 講義「人とのつながりから生まれる地域づくりを学ぶ」
- ・ フィールドワーク「伊予市双海町内体験プログラム」
- ・ 地域とのかかわり方や人と人とのネットワーク構築についての意見交換

〈参加者〉 12 名

〈主催〉 (一財)地域活性化センター

〈共催〉 (公財)えひめ地域活力創造センター、伊予市

〈協力〉 (一社)えひめ暮らしネットワーク

④その他の連携

- ・地域活性化センター情報誌「地域づくり」への寄稿
令和5年6月号特集編、令和6年3月号
- ・地域活性化センターによる「舞たうん」への寄稿
第154号(令和6年3月発行予定)

4 その他関連事業

(1)ホームページ等による情報発信

センターのホームページや SNS(Facebook)を通じて、事業活動の紹介や地域づくりに関する各種情報を広く周知している。また、各事業の実施に当たってはパブリシティ活動に努め、メディアによる露出を図った。

(2)調査等受託事業

- ・愛媛県観光物産関係事業者満足度調査事業((一社)愛媛県観光物産協会より受託)